

平成30年度まちづくり協議会交流会／ 地域力パワーアップ大会

日時 平成30年12月6日（木）15時00分～17時15分

場所 松山市本館11階 大会議室

主催 松山市（市民参画まちづくり課）

出席者

《松山市》

北澤副市長、津田市民部長

松山市コミュニティ・アドバイザー 讃岐幸治 氏
若松進一 氏
前田 眞 氏

《事例発表》

雄郡地区まちづくり協議会 安全安心部長 山下 浩 氏

石井地区まちづくり協議会 会計 有光逸武 氏

生活安全部長 和田圭理 氏

まつやま防火防災ものづくり隊（松山工業高校）
池内雪乃 氏

近藤冴紀 氏

間藤七菜 氏

桑原地区まちづくり協議会 事務員 河邊ゆう子氏



内容

1. 開会あいさつ（松山市副市長 北澤 剛）

2. 事例発表・意見交換会

◆雄郡地区まちづくり協議会「実践的な防災訓練への挑戦」

- ・避難所開設訓練として校区内3小学校（雄郡小学校、双葉小学校、たちばな小学校）でそれぞれ同時開催。
- ・雄郡小学校：避難所開設に向けての防災リーダーの選出や防災班の構築
- ・双葉小学校：防災資器材の使い方を中心とした実地訓練
- ・たちばな小学校：避難所運営ゲーム（HUG）を用い、カードに書かれた



内容を各自が自分で考えて責任をもって解決することで、避難所の在り方を体験。

- ・必ずしも日中に発災するとは限らないので、H29年11月には夜間避難訓練を双葉小学校で実施。
- ・被災状況などを地区の本部や行政に伝えられるよう無線訓練や、段ボールを使った簡易トイレの作成、HUG訓練を実施。
- ・それ以外にも、より多くの住民が参加できるよう、町内運動会のプログラムとして防災訓練を実施。
- ・天候の関係で中止になったが、今年7月には子どもの夏休み期間を利用し、1泊2日の親子防災キャンプを実施予定だった。
- ・「あきらめない、いいわけをしない、うけいれる、えがお、おつかれさま」の「あいうえお」を意識し、今後も防災訓練や避難所運営をしていきたい。

◆石井地区まちづくり協議会「台風18号を経験して見えてきたこと」

- ・松山市内で最大の人口規模になっており、まとまった行動が難しいため、災害時に備えた連携体制を作ることが必要。
- ・まちづくり協議会に「生活安全部」を置き、自主防災組織の連合会長が兼務
- ・町内会組織と自主防災組織が一体的に活動しづらいという意見があったので、今年度から町内会長が各町の自主防災組織の会長を兼ねることに。
- ・地区内の小中学校など10カ所に避難所があるが、細やかな訓練ができていないので訓練のやり方を模索している最中に台風18号が襲来。
- ・重信川が危険氾濫水位を超え、地区内に避難勧告が出たため、古川地区の住民約200名が避難してきた。
- ・その後各地でも災害が多く起きたため、地域・企業・学校・行政それぞれの核と連携を強めることが必要と感じ、防災訓練を実施。
- ・今後の展望として、災害時の情報共有のためにまちづくり協議会の中心である支所・公民館・まちづくり協議会それぞれを地区の核として創出していきたい。
- ・7月豪雨を踏まえ、避難所の開設・運営に重点を置いた防災机上訓練も実施。
- ・避難者が自主的に避難所を運営するのは困難と感じたので、あらかじめ避難所を運営する委員を選出。
- ・運営のルールも統一する必要があるため、各避難所にマニュアルを作成。



◆松山工業高校「みんなで防火防災ものづくり」

- ・ 市民活動推進補助金を活用し、「防火防災ものづくり」をテーマに市民活動を実施。
- ・ 繊維科では染色や織物技術、繊維製品作りを学んでいる。
- ・ 昨年有志が集まり、「まつやま防火防災ものづくり隊」が結成された。現在13名で活動中。
- ・ 「地域防災に参加し、地域の人と交流を深めながら問題意識を共有し、社会とつながりを持ちたい」「災害時に役立つ知識を子どもや高齢者と一緒に高める」という2つの目標のもと、活動を実施。
- ・ BOUSAIバッグ：普段は手提げバッグとして使用でき、地震の際は防災ずきんに変身。バッグの中には軍手や小銭など、必要最低限のものを入れておくことが可能。
- ・ 愛媛県の防災訓練ではあまり防災ずきんやヘルメットが使われていないことに着目。
- ・ いつも持ち歩いて防災を意識することのできるBOUSAIバッグを作成。
- ・ 家庭で起こる火災は料理時の着衣着火によるものも多いため、防災素材を使ったエプロンも作成。
- ・ こうした活動を通して地域の人と触れ合うことがやりがいにもつながる。
- ・ 住む町をより良くしたいと思う地域の人々の気持ちに触れることで、自分たちの活動の役割が見えてきた。



◆桑原地区まちづくり協議会「女子会の発足について」

- ・ H28のまちづくり協議会交流会で「女子会を開催してはどうか」と参加女性から意見があり、さらに事務局長連絡会で将来的に活動を活発化する必要がある、と意見がまとまり昨年から実施。
- ・ 各まちづくり協議会で活動している女性が集まり、昨年第1回の「まちづくり女子会」を開催。
- ・ 防災や福祉、地域での役割など幅広い話題について意見交換を行う。
- ・ まちづくり女子会に参加する中で、女子会桑原地区でも女子会の風を吹かせようと「桑原まちづくり女子会」を立ち上げた。
- ・ 桑原地区まちづくり協議会の役員女性を含む17人に声をかけ、まずは親睦会を開催。



- ・現在女性役員は20代～70代の幅広い年齢層で構成。役員38名中17名もの女性が占めている。
- ・H30年度にまちづくり女子会活動費を確保することができたので、愛称を「くわばらジェンヌ」に決定。
- ・くわばらジェンヌの活動の方向性を話し合う中で、避難所運営ゲームHUGも活用。
- ・安全安心部と桑原婦人会共催の女性と防災の研修会を、保健福祉部は畑寺児童館とタイアップして「でらうま食堂」を実施。
- ・食文化・異文化交流として、地区内の愛媛大学農学部や東雲短期大学、東雲女子大学の留学生と地区内の学生、住民と料理教室を開催。
- ・今年度のくわばらジェンヌの情報交換では、でらうま食堂スタッフ不足が意見として出たことにより婦人会や民生委員の協力を得ることができた。
- ・意見を出し合う場があることで各種団体がつながって交流できるようになればと思っている。

3. 講評（松山市コミュニティ・アドバイザー）

【前田アドバイザー】

- ・災害時は避難所の運営が大切になってくるので、各まちづくり協議会で進めていければいいと思う。
- ・今回の災害で県外から南予に多くの作業員が来てくれたが、その受け入れ体制や支援をどうしていくかをこれからは考えていく必要がある。
- ・女性にはものづくりが得意な人が多いと思うので、そこを活かしてまちづくりに女性の参画を促せていけると良い。



【若松アドバイザー】

- ・今年7月の豪雨災害でまちづくり協議会が設立されている地区は改めて、まちづくり協議会の必要性を感じたのではないかな。
- ・みんなでまちづくり協議会を設立していこうと進めているが、まだ11地区では未設立。設立に向けて安心安全の意識向上は1つのきっかけになると思う。
- ・女性が輝くまちは良いまち。今回の発表のように女性が集まる会を作って女性の活躍できる場を作っていってほしい。



【讚岐アドバイザー】

- ・まちづくりの核になるのは学校。学校抜きには活動は進めていけないので、日頃から学校に出入りする関係を作っておくことが大切。
- ・学校と地域が連携する仕組みを作っておかないと、いざという時に避難などができない。
- ・学校と関わると、そこに出入りする若い世代をまちづくりに取り組むことができるので、学校を隔離した地域づくりはあまりおすすめできない。
- ・女子会の発表でもあったが、人間関係を構築するにはまずは親睦が大切。



4. 閉会